

雜 報

◎人 事

陸軍二等軍醫正 平 野 林
 從五位勳三等
 陸軍一等軍醫正
 陸軍一等軍醫 大 橋 要 人
 從六位勳六等
 陸軍一等軍醫 大 田 澄
 從六位勳五等
 任陸軍三等軍醫正
 陸軍二等軍醫從七位 戒 能 一 郎
 任陸軍一等軍醫
 北海道帝國大學教授 西 川 義 英
 陸軍高等官一等
 臺灣歩兵第二聯隊 田 村 權 五 郎
 附陸軍三等軍醫正
 補臺軍軍醫部員
 歩兵第七十七聯隊 金 光 三 郎
 附陸軍三等軍醫正
 補山形衛戍病院長兼歩兵第三十二聯隊附
 陸軍一等軍醫正 平 川 龍 造
 補第十六師團軍醫部長
 旅順重砲兵大隊附兼旅順要
 塞司令部附陸軍一等軍醫 丹 原 驍 夫
 補歩兵第三十九聯隊附
 陸軍一等軍醫 廣 津 格
 補歩兵第十一聯隊附
 第七師團軍醫部部
 員陸軍一等軍醫 久 保 田 正 治
 補陸軍軍醫學校副官
 陸軍野戰砲兵學校 清 水 伸
 附陸軍一等軍醫
 兼補陸軍野戰砲兵學校教官同校研究部部員
 平壤衛戍病院長 三 宅 幹 夫
 陸軍一等軍醫正
 待命被仰付
 (八月一日)
 正六位勳三等 長 田 祖 村
 從五位
 (八月一日)

岡山醫科大學助手 清 水 勝

任岡山醫科大學助教授
 敘高等官七等

岡山醫科大學助教授 清 水 勝

本俸十一級俸下賜
 職務俸金四百五圓下賜

(八月十三日)

○兼松徳次郎君 は今般岡山醫科大學石山外科教室を辭し大阪市大正區南恩加島町木津川病院に勤務せられたり

○安岡準三君 は今般岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室を辭し盛岡市日本赤十字社支部病院に勤務せられたり

○星島忠夫君 は今般岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室を辭し本縣兒島郡日比町三井造船所病院に勤務せられたり

○中尾與一郎君 は今般岡山醫科大學稻田内科教室を辭し本縣英田郡吉野村村立診療所に勤務せられたり

○若尾五雄君 は先般より尼ヶ崎市南川産婦人科病院に勤務せられたり

○渡邊雅男君 は豫て岡山醫科大學稻田内科教室に於て研究中なりしか先般辭職の上本縣兒島郡琴浦町に於て開業せられたり

○伊藤正道君 は先般より岡山醫科大學産科婦人科教室に於て研究に従事せられたり

○竹内道眞君 は豫て岡山醫科大學神經科精神科教室に於て研究中なりしか今般辭職松江母衣町に於て開業せられたり

上坂熊勝君 薨去

岡山醫科大學名譽教授上坂熊勝君は先年輕度の中風症に犯かされたりしも爾後漸次恢復し近來は甚だ元氣にて殆ど毎日教室に來り研究を續け亦其の最も嗜好する旅行、遠足など絶えず行はれ居りしが本年6月下旬再び腦出血が襲來し初めは輕快に向ひ居りしも7月中旬より漸次重態に變はり剩さへ氣管支加答兒を併發し藥石效なく遂に7月27日午前5時薨去せらる行年60有8。越えて29日午前11時上坂邸へ 勅使を差遣され白絹2匹を賜はり尙ほ別に祭料を下賜せらる遺骸は學術研究の資に供せんとの遺言により岡山醫科大學病理學教室に送り同日午後1時より田村學長執刀の許に解剖に附せらる。次て午後4時より當市大雲寺の木の新らしき本堂に於て盛大なる告別式を執行せらる前日まで十數日間も降雨なき旱天も君の薨去を悼みてか當日は朝より度々驟雨來り殊に告別式當時は車軸の如き大雨なりき

式場正面の佛壇には勅章及び御下賜物其の他種々の供物を飾られ其の兩側は寄贈の花輪や供花を以て埋められ其の前の座席を遺族及び親族席と會葬者席とに二分せらる又式場前面には君の肖像を安置し花輪を飾り普通會葬者の燒香所となせり

式は十數名の僧侶の讀經を以て始まり田村學長、田村岡山醫學同窓會長、廣瀬岡山市醫師會長、門弟總代の八木田教授、學生總代の伊賀君及び岡山加越能人會等の弔辭、二百數十通の弔電捧供等あり、最後に燒香を以て終り靈柩車を先頭に25輛の自動車を連ね東山の火葬場に向ひ茶毘に附せらる寔に哀悼に堪はず茲に謹みて弔意を表す

尙ほ左に田村學長の弔辭を載録す

弔 辭

維時昭和九年七月二十九日茲ニ我ガ岡山醫科大學ハ名譽教授正三位勳三等醫學博士上坂熊勝君ノ薨去ヲ悼ミ謹ミテ哀惜ノ辭ヲ陳ベントス

君ハ明治十九年金澤醫學學校ヲ卒業シ更ニ東京帝國大學東京慈惠院醫學學校ニ於テ專念研鑽スル處アリ第四高等學校講師大阪醫學學校教諭第三高等學校醫學部講師ヲ經テ明治三十年五月十五日岡山醫學專門學校教授トナリ同年六月二十九日醫學博士ノ學位ヲ授與セラレ大正十一年四月一日岡山醫科大學ノ創設ト同時ニ教授トナリ昭和七年二月八日ニ至ル在官實ニ三十有餘年尙ホ有爲ノ材ヲ以テ退官シ敢テ後進ノ爲ニ道ヲ開カレ同三月二十五日 勅旨ヲ以テ岡山醫科大學名譽教授ノ稱號ヲ授ケラレタリ

君篤行親切ニシテ嘗テ等ハス子弟ヲ誘掖スルヤ寛厚寔ニ教育者ノ好模範ト稱セラレ門下集マル者多ク皆其ノ德ニ懷ク君ヤ夙ニ解剖學ヲ專攻シ學識一世ニ高シ君ガ腦髓ニ關スル業績ハ斯界ノ一大權威ヲナシ學者最高ノ榮譽タル學士院恩賜賞ヲ享受セラレタルハ昔ク人ノ知ル處ナリ而シテ君病革ルヤ言ヲ遺シテ遺骸ヲ解剖ニ附ス可キヲ命セラレ終始學ニ忠ナル君ガ如キ亦稀ナリト云フヘキノミ君今ヤ無シ學界ノ損失夫レ幾何ゾヤ余輩亦多年同僚トシテ交誼ヲ忝フセルモノ顧ミテ轉寂寥ノ感ナクンハアラス嗚呼悲哉然リト雖モ君カ生前ノ功績ハ炳トシテ日星ノ如ク薨去ノ報一度天聽ニ達スルヤ特ニ 勅使ヲ差遣セラレテ親シク君カ靈ヲ慰メ玉フ寔ニ死シテ尙ホ且餘樂アリト謂フヘシ

今ヤ陰鬱ノ氣低ク垂レテ君ノ死ヲ悼ムカ如ク瞑目生前ヲ回想スレハ君カ風丰彷彿トシテ宛然在スカ如シ

在天ノ英靈希クハ來リ亨ケヨ

昭和九年七月二十九日

岡山醫科大學長 田村 於 兎

河本眞吾君逝く 君は明治 23 年第三高等中學校醫學部を卒業し郷里本縣久米郡大倭村に於て開業し今日に至りしか本月 8 日病を以て永眠せられたりと遽に哀悼に禁へず謹みて茲に弔意を表す

和田英太郎君逝く 君は明治 28 年第三高等中學校醫學部を卒業し大阪回生病院に勤務最近大阪府豊能郡箕面村に於て開業し居られしか過日病を以て遠逝せられたりと遽に哀悼に堪へず謹みて茲に弔意を表す

◎學位授與

藏本常雄, 西村伊勢松, 沖井磯吉の 3 君は論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしか本年 7 月 2 日の教授會を通過し本月 18 日醫學博士の學位を授與せられたり其の主論文及び參考論文は左の如し

藏 本 常 雄 君

主 論 文

腸内核蛋白消化ニ及ボス膽汁酸ノ影響

1. 腸内核酸消化ニ及ボス膽汁酸ノ影響 (昭和 7 年外字生化學雜誌第 16 卷第 1 號ニ發表セリ)
2. 腸液ノ反應及ビ酸排泄ニ及ボス「ヒヨール」酸ノ影響 (昭和 9 年 5 月外字生化學雜誌第 19 卷第 3 號ニ發表セリ)
3. 腸液内「ナトリウム」「カリウム」「カルシウム」及ビ「マグネシウム」排泄ニ及ボス「ヒヨール」酸ノ影響 (昭和 9 年 5 月外字生化學雜誌第 19 卷第 3 號ニ發表セリ)

參考論文

1. 尿ノ水素「イオン」濃度ニ及ボス膽汁酸ノ影響 (昭和 9 年 3 月外字生化學雜誌第 19 卷第 2 號ニ發表セリ)
2. 肝臟糖原質生成ニ及ボス膽汁酸ノ影響補遺 (昭和 9 年 3 月外字生化學雜誌第 19 卷第 2 號ニ發表セリ)
3. 血中磷酸鹽ニ及ボス「ヒヨール」酸及ビ「アドレナリン」ノ影響ト植物神經トノ關係ニ就テ (結城英夫, 藏本常雄共著) (昭和 8 年外字生化學雜誌第 17 卷第 1 號ニ發表セリ)

西 村 伊 勢 松 君

主 論 文

耳性腦膿瘍ノ病理ニ關スル實驗的研究

- 第 1 報告 耳性腦膿瘍ノ成立機轉ニ就キテ
- 第 2 報告 耳性腦膿瘍ノ鼓膜竝ニ周圍腦組織ニ就キテ (追テ大日本耳鼻咽喉科會々報ニ發表ノ豫定)

參考論文

1. 腦放線狀菌病ノ實驗的研究 (昭和 8 年 12 月大日本耳鼻咽喉科會々報第 39 表第 9 號ニ發表セリ)
2. 我教室ニ於ケル耳性腦靜脈竇血栓ノ統計的研究 (田中文男, 桑原良一, 西村伊勢松共著) (昭和 7 年 9 月大日本耳鼻咽喉科會々報第 38 卷第 6 號ニ發表セリ)
3. 外聽道内有機物注入ニ因ル海狸迷路炎ニ就テ實驗的研究 (小田大吉, 西村伊勢松共著) (昭和 9 年 7 月大日本耳鼻咽喉科會々報ニ發表セリ)
4. 齒牙ヨリ侵入セル頤部放線狀菌病ノ 1 例 (昭和 8 年 7 月大日本耳鼻咽喉科會々報第 39 卷第 4 號ニ發表セリ)

5. 先天性側頸囊腫ノ2例 (追テ本誌ニ發表ノ豫定)

沖井 磯吉君

主論文

石灰及ビ磷新陳代謝ニ及ボス膽汁酸ノ影響

- 第1 正常竝ニ内臓神經切断犬ノ糞便中石灰
竝ニ磷排泄ニ及ボス膽汁酸及ビ「アドレナ
リン」ノ影響 (昭和7年9月外字生化学雑誌
第16卷第1號ニ發表セリ)

第2 犬ノ石灰及ビ磷出納平衡ニ及ボス膽汁

酸ノ影響 (昭和8年7月外字生化学雑誌
第18卷第1號ニ發表セリ)

参考文献

1. 脂肪酸ヨリ肝臓糖原質生成ニ及ボス膽汁酸
ノ影響 (追テ外字生化学雑誌ニ發表ノ豫定)
2. 動物体内「フェノール」硫酸合成ニ及ボス膽
汁酸ノ影響 (追テ外字生化学雑誌ニ發表ノ
豫定)
3. 不飽和脂肪酸投與ト尿沃度數値ニ及ボス諸
種「ホルモン」ノ影響 (本誌第46年第6號
ニ發表セリ)

◎ 岡 山 醫 學 會

同會 357 回通常會は本年 9 月 20 日午後 4 時より

岡山醫科大學に於て開會す